2378
246

2378
2461

兒ケ淵拾言仇討

相列沖の嶌い人皇三十代欽明天皇十三年壬申四月十二日
より九三日迄大地震動して一つの嶌出現を是今の江の嶌な
則金竜山と称開山役乃行者次ふ恭證道智弘法なる其後
養和二年壬寅寿永元年〻四月五日文覚上人武衛祈の為弁才
天を観請を此嶌裏に兒ケ渕とゝふあり白菊なる児此所にて
入水なる一奇談を古老乃語傳へるを増補して茲久法師
が義賢片瀬が悪念并越後乃農夫五三郎ケ孝心等を綴
集め前後七冊乃稗史を永〻兒ケ渕誓仇討と名づく
前後合して首尾とゝのふ畢

文化六巳巳初春

月池山人

關東

松
去年信

伴
大
三界萬灵

讀書

ここに
のそんぢゆんの
いちじを
まもりて
さむらいのつひと
ちやどごまろと
ぬすびとらごに
ありつきたれば
そのびのゆづが
井ぢへあちて
ぎやつはいらく
とも四ぜんの
うんのつきぬ
のさ

金

金

関雎傳奇

兒ケ渕誓仇討　後編　四冊

文化六年巳年　新刻繪草紙

前之丞孝行記　勸善辻談議　全部山東京傳作　八冊歌川豊国画

因縁物語　躾草娘庭訓　全部山東京山作　八冊歌川豊国画

五大力后編　其後日三伍大切　全部山東京山作　五冊歌川国貞画

戀女房離討双六　全部蜆尉輔作　六冊歌川豊国画

播州鹿児川教信士由来　敵討爰高砂　全部蜆尉輔作　六冊歌川国貞画

楚満物語儒家花　合巻三冊　古人楚満人作　歌川国貞画

右のこゝを出板奥書　江戸高砂町　やい所取扱ふ　堂問屋　伊賀屋勘右衛門板　亘に偽判を希とい

文化年

豐見洲繪

全部

仮名淨瑠璃

七冊

巳春新板模本板

遠
2378
246

兒ヶ渕誓仇討

前編 三冊

海

白きくとうのすいこ
ひとるきこと
てろのさけとあつ
くるがあらさていさろ
あるこうれがゆろ
たまくとをばうく
こてふるりんてしめ
えろるよにろのでんこふ
あくわしてひてこの
おせんにろれて
かさろうしぎてる
てしじゆうで
ろこさでしふ
このていせこて
なかせんにてこ
りがこひのくあは
もふこうぎくがある
ゆくうれがきあを
つくにいろておて
さらじをあひいさんを
くこくろ
おてころぎくしん
これりしのが
ゆくくハ出家
ゆるるこあうえ
それでかろろふ
ろうまを

見

池田
伊丹
上諸白
本中
仕造
者

右面大明神

駿州
うつの山
人見
の圖

五こてら
ふく
村
吉ら
きく四

おきなの
さくもち
あやこそ
とひたの
あれ
あしたの
ふかい
をそ十ろくさ
あちつきそ
むくへのんを
ろらあふせ
ことをりの
さそれぞろふ
たふまろそび
このつのろを
ちぶさそぶのへ
ひろふせしぶさん
しるあれ、ろとびあて
ちのあさをゆいひしこと
さんぐのさこへそうけの
さバありを者ろてくまんち
三百ろくしあつり白井のりへと
さそぐくありみそりものうんゆい
めるしびきこりにありそそくれもあちぐの
こらふくおりて三百ろくぐされごらしそうん
あひさそえおきうことこれまでめうたんうんを
いろらぐこと人のりのをこうてくこと白きぐあん
ふしるこいひあぐこぐひるれぎしやうまを
あそれわびあるこぐされあぐくこうぐに
しくまぶしめそこりへるめぐきこれぐ
あれべひこさこりはんどろうりうをりこ
ひぐくい

八のぶの
さくの人と
四とを
うくあくの
ちこき
ろうえん
おりへば
ゆあの
うくくよ
しゃ
みア

あるをきく町おやこいろくにこぐりゆ。ころものそぐを
ろうきこうそうみてきしそころうさんあとめくくろあの
しるいりろうもこがあちのぜろらをくくの行りまこくふ
ゆちまおろしのしやこのくぐんろくれこもあるあるこ
こもあるうろうもうろうもこふこくこのりへろ
ちくあればあろうあうろうあるこのうろうこと
あこくこれとんろくふゆうしんがふくそもこ
いるもりひあもこやこそろうこうろちぐふろぐこと
毋りひつけこう

懸崖嶮處捨生涯　十有餘霜在刹那
花質紅顔碎岩石　峨眉翠黛接塵沙
衣襟只湿千行淚　扇子空留二首歌
相對無言愁思切　暮鐘為誰促歸家

○白ぎくのくれのゆさ竹のゆ松くこにてもに入れ乃しゆと
うれーきさくくく

月池閑亭傳笑作

児ぢ渕誓の仇討

前編三冊

出来る出し有之候間
御覧被下度 板本板